

10. 四国（地域別調査機関：四国経済連合会）

（－：回答が存在しない、＊：主だった回答等が存在しない）

分野	景気の現状判断	業種・職種	判断の理由	追加説明及び具体的状況の説明
家計 動向 関連 (四国)	◎	設計事務所（所長）	単価の動き	・飲食費や消費財等の値上げが確実に進んでおり、インフレが進行している。
	○	商店街（常務理事）	来客数の動き	・物価高が継続する状況のなか、中所得者層の消費行動に関しては、商品の吟味はするものの、必要な物や自分が推す物事への支出に対してはある程度前向きである。一方、日常の支出に関しては用心深く、よりメリハリのある消費を心掛けている様子がみられる。
	○	商店街（代表者）	それ以外	・衆議院選挙の結果により、今後の経済対策に期待できる。減税を打ち立てているため、消費者の気持ちは前向きになるとみている。
	○	スーパー（企画担当）	単価の動き	・単価上昇の継続は、客の購入金額の上昇につながっている。ただし、来客数、購入点数の伸びは鈍く、異業態も含め競合店が出店した地域では苦戦が続いている。
	○	家電量販店（店員）	販売量の動き	・新生活準備への取り掛かりが鈍く、家電の販売数が思ったほど伸びていない。
	○	家電量販店（副店長）	販売量の動き	・白物家電、エアコン、パソコンの販売台数の伸びが良く、全体的に実績が向上している。前年比115%で推移しており、1人暮らし向け商品が増加している。
	○	一般レストラン（経営者）	来客数の動き	・外出しやすい暖かい日には、来客数が増加しており、前年よりも3割ほど売上が増加している。
	○	観光型旅館（経営者）	来客数の動き	・宿泊業にとって2月は閑散期だが、今年は例年より多くの人が当地に来ている。
	○	通信会社（営業部長）	販売量の動き	・例年2月は販売が低調となる時期だが、1月同様販売数が伸びている。
	□	商店街（代表者）	それ以外	・衆議院選挙の結果により、政策の進行が急加速する可能性が出てきた。公約がスムーズに実行されれば、地方への恩恵も期待できる。副都心構想についても、東京1極集中の是正の観点から大いに討議してもらいたい。
	□	商店街（代表者）	お客様の様子	・年末年始が過ぎ、元々需要が低下する時期のため、客の動向が少し低調になっている。価格の上昇は続いており、客は必要な物しか購入しない状況である。収入の格差が広がっており、全体的な購買意欲の向上は難しい状況である。
	□	一般小売店〔生花〕（経営者）	お客様の様子	・退職、卒業などの祝い商品の購入に当たって、少しでも安い物を選ぶ人と、物価上昇もあって例年より少し高い物を選ぶ人にはっきり分かれる。
	□	一般小売店〔書籍〕（営業担当）	販売量の動き	・1～2月の2か月連続で店頭売上は非常に悪い一方、外商売上でマイナス分をカバーし、全体ではプラスである。
	□	百貨店（マネージャー）	販売量の動き	・中国人を中心にインバウンドが激減しているが、国内では高額品で売上をキープしている。
	□	スーパー（財務担当）	販売量の動き	・ポイントが多く付く販売促進日の売上は好調に推移しているが、平常日の落ち込みが大きい。
	□	コンビニ（店長）	来客数の動き	・来客数は前年比96%で減少している。物価上昇により売上は前年並みを確保しているが、利益は減少している。
	□	コンビニ（総務）	販売量の動き	・今月の売上は前月と比べて好調だが、3か月前も好調だったため、景気は横ばいである。
	□	コンビニ（商品担当）	単価の動き	・価格が上昇した輸入肉、卵、国産米、物流費が、全て商品単価に上乗せされたことにより、来客数の減少や客単価下落など特に中食が厳しい状況である。
	□	衣料品専門店（経営者）	販売量の動き	・例年であれば2月は1年間で最も売上の低い月だが、天候に恵まれたことにより横ばいで推移しており、2～3か月前より比較的良い。
	□	衣料品専門店（経営者）	来客数の動き	・相変わらず来客数は少なく、景気は3か月前と比べても余り変わらない。

	□	衣料品専門店 (営業責任者)	販売量の動き	・前年と比べ、来客数が減少傾向にあり、売上も前年を5%程度下回っている。物価の高止まりから、衣料品の購入を抑えていると話す客も多く、厳しい状況である。
	□	乗用車販売業 (営業担当)	販売量の動き	・販売停止中の車種が多く、受注台数の伸びにつながらない状況が続いている。
	□	乗用車販売店 (役員)	販売量の動き	・受注状況に大きな変動はない。
	□	その他小売 [ショッピング センター] (館長)	来客数の動き	・3か月前から継続して、売上、来客数共に前年より伸びており、今月も好調を維持できている。衣料品等の物販は回復傾向であり、食品や飲食、サービスも引き続き好調である。
	□	都市型ホテル (経営者)	販売量の動き	・衆議院選挙後も余り変化があるようにみられない。
	□	タクシー運転手	お客様の様子	・今月は、3か月前の11月と比べて余り変化はない。衆議院選挙の影響もあり、夜の人出は少なかった。昼も、車の台数が少ないことによる実車率のわずかな好調は、以前から変わっていない。
	□	観光遊園地 (主幹)	来客数の動き	・前年同月比の来客数推移に変化がない。
	□	競艇場 (マネージャー)	来客数の動き	・来客数については、若年層は若干少なくなってきた気配がするものの、常連客である高齢者層は根強く、堅持されている。
	□	美容室 (経営者)	来客数の動き	・2月前半は余り客が動かなかつたが、後半は卒業式、入社式などの客が動き出した。
	▲	スーパー (店長)	販売量の動き	・単価の上昇以上に、販売点数の減少による影響が上回っているため、客単価は前年を下回っている。
	▲	スーパー (企画担当)	来客数の動き	・実質賃金の低下により、消費の2極化が進行している。
	▲	スーパー (人事)	販売量の動き	・経済政策への期待はあるが、現時点では物価高騰などの不安材料の方が勝るため、消費に対して慎重になっている。
	▲	スーパー (統括担当)	単価の動き	・以前は、物価高の影響により客単価が前年を超えていたが、現在は前年割れするようになった。
	▲	美容室 (経営者)	販売量の動き	・低迷が続いている。
	×	コンビニ (店長)	来客数の動き	・前年夏以降、来客数がやや減少傾向ではあったが、最近顕著である。ドラッグストア3店舗、激安スーパー、コンビニなど、一気に市内の店舗が増えたのが要因とみられる。
企業 動向 関連 (四国)	◎	—	—	—
	○	食料品製造業 (商品統括)	受注量や販売量の動き	・自社の強みを十分にアピールできる商品の販売開始が、客先の注目度や消費の動きに顕著に表れている。
	○	鉄鋼業 (総務部長)	取引先の様子	・造船業界は国の政策もあり、活性化し始めている。ただし、産業機械業界は低調で推移している。
	○	電気機械器具製造業 (経営者)	受注価格や販売価格の動き	・再生可能エネルギーや再生資源の仕事において、ようやく二酸化炭素を出さない事業を意識的にするようになったため、行動に移せるよう計画している。
	○	輸送業 (経営者)	受注価格や販売価格の動き	・政権の安定が大きいとみられる。
	○	不動産業 (経営者)	受注量や販売量の動き	・不動産取引について、長期間にわたる商談の結果が出始めた。売買、賃貸とも契約締結がやや増加した。
	□	繊維工業 (経営者)	受注量や販売量の動き	・前年末に一部の商品を値上げしたが、その後も受注は順調である。中国からのインバウンドは激減しているが、他国からの観光客が地方にも拡散しており、それほどマイナス面はみられない。
	□	通信会社 (総務担当)	受注量や販売量の動き	・社内イベントやボランティア活動の参加人数はほぼ横ばいである。
	□	金融業 (副支店長)	取引先の様子	・3か月前と比べて大きな変動はない。
	□	税理士事務所	取引先の様子	・好景気になるような周りの変化がない。
	▲	木材木製品製造業 (営業部長)	受注量や販売量の動き	・受注量が減少傾向にある。住宅着工数も改善の兆しがなく、先行き不透明であるのに、人件費と材料費は上昇している。価格転嫁の早急な対応が必須となっている。

	▲	建設業（経営者）	受注量や販売量の動き	・公共事業も発注が遅れており、民間もめぼしい事業は少ない。
	▲	通信業（企画・売上管理）	受注量や販売量の動き	・ナショナルスポンサーのCM量が減少している。
	×	—	—	—
雇用 関連	◎	—	—	—
	○	—	—	—
(四国)	□	人材派遣会社（オフィス責任者）	周辺企業の様子	・明るい話題は余りなく、物価や人件費の高騰により人手不足を解消できない。
	□	人材派遣会社（総務部長）	求職者数の動き	・求職者数は相変わらず少ない。
	□	求人情報誌（営業）	求人数の動き	・インフラに関連する業界では、これまでも慢性的な人手不足であったが、ここ最近で更に求人数が増え、より深刻な状況である。一方、サービス業、小売関係などは、人手不足は続いているものの求人数は少し減少している。
	□	職業安定所（求人開発）	雇用形態の様子	・人材不足が企業活動に与える影響は日々顕著になっていることから、これまで以上に企業活動の状況や雇用環境への影響について注視する必要がある。
	▲	新聞社〔求人広告〕（担当者）	それ以外	・来期の予算調整の時期だが、民間は予算減少の話が多い。来期も官公庁中心の注力が予測される。
	×	—	—	—